

# 音楽とは 横への感性なり!

合唱団ホームページアドレス

<https://www.wiengifu.org>

4月号

2021年4月1日

編集・発行

ウィーン岐阜合唱団

## コロナ禍での『Dona nobis pacem』

大垣支部 岡田 富雄

厚い防音扉を抜けて登壇し、そこから見える景色は特別なものでした。大きなパイプオルガンを背に、頭上に輝くシャンデリアの照明も近く、まぶしく感じられました。岐阜県が誇る音楽の殿堂「サラマンカホール」といえば、今までは客席からプロの演奏家たちを見るものだと思っていましたが、まさかそのステージに立てるとは。

今回はコロナ禍で種々の制限のもとに行われ、いつもとは違った演奏会でしたが、それなりにアマチュアである私たちの身の丈に合った新しいスタイルがあったのではないのでしょうか。演奏もピアノとバイオリンのみでしたが、とても会場の広さにマッチしていたと思います。臼井団長、鷺見さんのソリストも素晴らしかったです。もちろん、和子先生、真由子先生のすばらしさは言うに及ばず。特に *Agnus Dei* の真由子先生のソロはまるで天使のような歌声で、教会の中にいるような錯覚を覚え、聞き入ってしまいました。来場されたお客様も同じ思いだったと聞いています。合唱団の私たちも登壇できる人数制限があり、隣同士のディスタンスも有ったことから自分の声がよく聞こえ、「間違い、飛び出しはやばい!!」という緊張感はいつも以上に大きいものがありました。それだけに終わった後の感動は特別なものがありました。今度はぜひマスク無しで歌いたいものです。人数制限で登壇できなかった人には本当にごめんなさい。そして、短い期間にここまでご指導いただいた平光先生をはじめ、先生方に感謝です。

緊急事態制限の中で開催された今回の演奏会が終わって、一番の想いは「無事に終わって良かった」です。団長をはじめ、スタッフの皆様は薄氷を踏む思いだったのではと察します。演奏会が終わって2週間が無事に経過し、団員、お客様に感染者が出なかったことで初めて胸をなでおろされたのではないのでしょうか。これも練習の時から感染予防が徹底されていた皆様の強い想いの成果だと思います。私は感染拡大の様子を見がてらということで、1か月遅れで大垣の練習に参加しましたが、入室する前の検温、ソーシャルディスタンスの徹底、シールド

の設置、唾液の飛沫防止などの工夫がすでに完璧になされており、おそらく、それまでにスタッフの皆様は試行錯誤を繰り返しながらやってこられたのでしよう。スタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

このコロナ禍で一つ願いが叶うなら、「東京にいる孫に会いたい」です。2019年の暮れに岐阜に来てくれてそれが最後になっています。もう一年以上会ってなくて「孫が命」のジイジにとってはとてもつらい日々になっています。どんなに東京に行って孫たちの顔を見たかったか。ハグしたかったか。そんなことも許されず現在に至っています。そんな想いのなかで歌った「星のこども」は歌うたびに孫たちの顔が思い出され涙が止まりませんでした。「きれいなお目めがわかります」「ふんわりお花にくるまって、お星の子供が見る夢は、どんなに楽しい夢でしょう」・・・孫たちはもう寝たかな、今頃どんな夢を見ているのだろう・・・この原稿を書いているときにも目頭が熱くなってきます。「星のこども」の曲をそんな風を感じているのは私だけかもしれませんが、その人のその時々で、それぞれの歌を独自に感じることも許されるのではないのでしょうか。素敵な歌に出会えて感謝です。

モーツァルトの「戴冠ミサ」を歌うことはコロナ禍が始まる前に決められていましたが、その英語名は「**Coronation Mass**」。コロナウィルスの語源もウィルス電子顕微鏡で見ると形が王冠に似ていることから来ており、その偶然性を感じたことがありましたが、長引くコロナ禍の中、今回の演奏会でこの「戴冠ミサ」が採用されたのは必然だったのかもしれませんが。まさにコロナ禍の鎮静を祈るミサ曲になっていたのではないのでしょうか。コロナ禍はもう一年以上続いており、大好きな合唱に参加したくてもできない人も多いのではないかと思います。本当に私たちが初めて経験する多くの不幸をもたらしています。「戴冠ミサ」の **Agnus Dei** の最後の最後に私たちが高らかに繰り返し合唱した「**dona nobis pacem**」(与えたまえ われらに 平安を)

マスクをしないで大好きな歌を大きな声でいっぱい歌える。大切な人と楽しく語り合い、笑い合える。会いたい人に会える。2019年末には当たり前だったこれらのことができなくなる日が来るとはだれが想像できたことでしょうか。もうすぐワクチンの接種が始まります。コロナ禍が収束し、当たり前のことができるようになる平安な日々が早く来ることを願うばかりです。



ウィーン岐阜合唱団 第9回ヨーロッパ 音楽・友好の旅



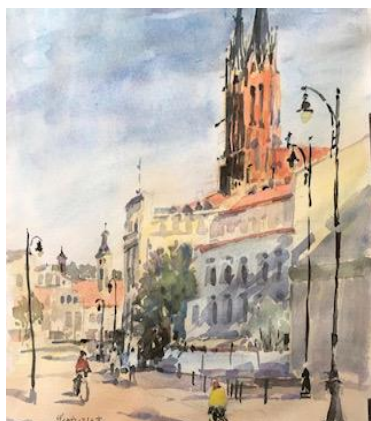
## リトアニア・ポーランド音楽紀行 4 (2018. 5/23-6/2) 川浪 進

5/29 8:30 バスで国境を越えて、ポーランドのヴィヤウストクと言う、これまたややこしい名前の街へ。250 km。トイレが少ないのか、なかなか、トイレ休憩がない。トイレ事情について、日本は清潔、無料、世界一上等と言ってよいが、自慢出来るのがトイレだけとは情けない。いよいよショパンの国にやってきた。ポーランド最初のレストランはアルバトロス。外観、内装とも素晴らしく申し分ないが、出された料理は申し分ありすぎる。蒸し餃子のような代物がこの地の名物だとか。ショパンはこんな餃子の出来そこないみたいなもん食ったんだろうか。イグノーベル賞のひそみにならって、もしもイグミシュランと言うのがあったら、ここの食いもんには、五つ星あげたい。

## こんな飯であんな名曲かやショパン



ポーランドと言えば、ショパン、キュリー夫人、コペルニクスなどを連想する。キュリー夫人の肖像写真から、知性は勿論うかがえるが、憂いに満ちた彼女の表情は何か



深い懊悩にとらわれているのだろうか、と思われる。同じ美人でもマリリンモンローのパッパラパーとは対極にある。ショパン

にしても憂い顔で、ニコニコ顔は想像すらできない。この感じがスラブ人の特徴かな。憂い顔と言えば、プーチンもそうか。でも彼は、慢性頭痛か便秘に悩んでいるとしか思えない。

午後2:30 ヴィヤウストク着。ポーランド入国に際して、なんの検門もない。市内観光。ブラニツキ宮殿、この中に何と医大が設置されてある。マグダラのマリア教会、ヴィヤウストク大聖堂見学。市街の佇まいも重厚荘厳極まる。そこいらの子供たちもこよなく清らかで愛くるしい。これで、食いもんが重厚荘厳、愛くるしかったら申し分ないんだけど。夕方、ホテル ゴレヴィウスキーにチェックイン。こんなホテル名をどうやって覚えろと言うんだろう。

5/30 ヴィヤウストクをバスでワルシャワへ。200 km。車中、中根君をスケッチ。

彼は閑なしに居眠っている、こんなきやすい人はいな体この君は水飲んか居眠りしてる「飲む出す寝る出だ行下二段活用。



りしな描い。一でるか、す」。さて、

市内観光。旧市街、誠に趣ある建築群がひしめいている一方で、 로마のどことなく薄汚れた物悲しいたたずまいが、由緒正しい古都には、なんとも似つかわしくない。

次号はいよいよワルシャワ

終盤の旅に差し掛かります、お楽しみに!!

## 4～6月 練習予定

**4月からの練習時間は 18:30～20:30 です (少し前までに集合しましょう)**

☆ 練習時間・体制等は、変更になることもありますので、ご注意・ご了承ください。

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
4月1日(木)	長森コミュニティーセンター	4月2日(金)	大垣市南地区センター
4月8日(木)	長森コミュニティーセンター	4月9日(金)	大垣市南地区センター
4月15日(木)	長森コミュニティーセンター	4月16日(金)	大垣市南地区センター
4月22日(木)	長森コミュニティーセンター	4月23日(金)	大垣市南地区センター
4月29日(木)	長森コミュニティーセンター	4月30日(金)	大垣市南地区センター
5月13日(木)	長森コミュニティーセンター	5月14日(金)	大垣市南地区センター
5月20日(木)	長森コミュニティーセンター	5月21日(金)	大垣市南地区センター
5月27日(木)	長森コミュニティーセンター	5月28日(金)	大垣市南地区センター
6月3日(木)	長森コミュニティーセンター	6月4日(金)	大垣市南地区センター
6月10日(木)	長森コミュニティーセンター	6月11日(金)	大垣市南地区センター
6月17日(木)	長森コミュニティーセンター	6月18日(金)	大垣市南地区センター
6月24日(木)	長森コミュニティーセンター	6月25日(金)	大垣市南地区センター

### 音楽家の名言

あなたの演奏を変える127のメッセージ より

前を向いて進むために

辛いことがあっても私は負けなかった

いつかはこの状況から抜け出せる日がくると信じていたから

フジコ・ヘミング



～ 編集部より ～

団員皆様からの原稿を募集しております。詳しい内容については、下記までお問合せください。

TEL: 090-9933-0374 FAX: 058-294-6114 Mail: [wien.chorus2021@gmail.com](mailto:wien.chorus2021@gmail.com) (高橋 なおこ)